

農家はどのように考えているか

＝農業経営に関する意識調査結果＝

この調査は、今日の一般社会の経済的なむづかしい諸条件のなか、また、「農業基本法」に象徴される新しい農業行政の展開のなかで、農業経営の担い手である農業経営主が、現在及び将来において、これらにどのように対応し、農業生産の社会的要請に応えつつ、生産性の向上と農業所得の増加とをはかつて、他産業従事者と均衡のとれた生活水準を維持しようとしているかを明らかにして、農業施策の資料とするために行つたものである。

この調査は農林省茨城統計調査事務所の職員によつて深層面接調査の方法で資料収集を行つた。

調査期日は昭和40年9月1日現在で行ない、調査項目は

- イ 農業経営主が農業と非農業への就業指向の動機
- ロ 同じく、農業規模（土地、労働、資本装備）の拡大縮少の考えと実現方法
- ハ 同じく、作目選択の種類、規模、方法、理由等
- ニ 同じく、水稲生産力の維持向上の目標と方法
- ホ 同じく、労働調整の諸要求

などで、

調査の対象としては、農家の経営主で本県内で990人が選ばれた（全国39,600人）

この調査は標本調査で、その抽出方法は階層別2段階率比例抽出法を用い、1調査区10戸の経営主が選ばれた。

I 結果の要約

(1) 職業としての農業に対する評価

1 農業観からみた農業の評価

農家層が職業としての農業に対して、どのような評価をしているかを知る手がかりとして、農業を實際担当している経営主につき、その農業観を農業の将来性と農業の生産面の2面からみた。

まず農業の将来性についてみると、やり方次第では有望と評価し将来に対して、明るい展望をもっている層が全国的には全経営主の半数近くの47.6%、本県54.0%である。これに対し農業の将来性について悲観的な評価をし、今后も必ずしもこれが打開の方向に推移することの展望をもたない層が、全国的に33%、茨城27%となつている。また、農業経営に対する信念や価値評価、あるいは展望が現在流動的であるが、将来これが可能性の諸条件が整備されるとこれに適応し、現在の意識が空洞である農家層が、全国、および本県に20%弱あつた。なお、農業の将来性について、積極的にこれを肯定する経営主

が本県の場合半数以上あり、全国、関東東山地域より高水準にある。

第1表 農業の将来性に対する評価(%)

	全 国	関 東 東 山	茨 城
やり方によつては将来性がある	47.6	47.8	54.0
そうは思わない	32.8	31.7	26.5
分らない	19.6	20.5	19.5
計	100.0	100.0	100.0

また「農業生産性がよいと考えるもの」および「努力によつてはよくなる」を併せた「農業は努力すればよい」割合は全国では44%、関東東山46%、本県は51%と高比率で、年令別にみても、それが看取される。これを経営耕地面積規模の相違による評価の差をみると、経営規模の拡大に伴い、将来性、生産性ともに増大し、0.7-1.0ha階層に至つて過半数を示している。

第2表 性、年令の差による農業の生産性評価(%)

区 分	農 業 は 努 力				
	す べ ば よ い	し て も わ る い	分 ら ぬ い		
平 均	全 国	44	40	16	
	茨 城	51	33	16	
性 別	男	48	40	12	
	女	55	32	13	
	全 国	31	41	28	
	茨 城	32	39	29	
男 性 の 年 令	24才以下	全 国	60	24	16
		茨 城	34	17	49
	25～29才	全 国	55	34	11
		茨 城	72	28	0
	30～39才	全 国	51	36	13
		茨 城	53	35	12
40～49才	全 国	50	38	12	
	茨 城	58	31	11	
50～59才	全 国	49	40	11	
	茨 城	58	31	11	
60才以上	全 国	40	44	16	
	茨 城	47	31	22	

2 後継者の決定状況からみた農業に対する評価

農業に対する評価を決定する側面として、農業後継者の決定に当つての経営主の態度をみた。これは農業後継者が既に決定したものは全国で42%、未定が54%、残りは子供がいなため決め難いことという状況である。本県では、前二者の割合は共に49%子供がないが2%

らとも云えない」あるいは「わからない」というように農業の将来性について確信をもち難いものは合せて全国平均12%、本県9%であった。

そこでこれを総合して、将来農業後継者が「ある」可能性は、全国64%、本県73%である。都府県の傾向は、東北の80%を最高に順次西にうつるにつれてその比重が低下する傾向にある。

第3表 後継者の決定 (%)

	後継者の決定		未定、子供がないものの農業後継者の決定志向					将来後継者が			
	決定	未定	つがせ	つがせない	どちらとも云えない	子供の意志による	分からない	ある	ない	あまい	計
全国	42	54	21	7	5	17	7	64	7	29	100
東北	54	45	27	4	3	9	4	80	4	16	100
北陸	48	50	24	5	4	13	6	72	5	23	100
関東	42	56	22	8	5	17	8	63	8	29	100
中部	49	48	15	5	4	19	8	64	5	31	100
近畿	42	54	17	6	5	22	8	59	6	35	100
中国	38	57	21	7	5	21	8	59	7	34	100
四国	37	59	19	9	6	22	8	56	9	35	100
九州	35	61	23	11	5	17	9	58	11	31	100
茨城	49	49	24	7	5	11	4	73	7	20	100

⑤ 北海道は省略

将来後継者がある=決定+つがせる。とした。

整数位にラウンドしたので端数は必ずしも合致しない。

なお、農業後継者の育成に当つて、農業経営の一部を後継者にまかせているものは、全農家の10%弱(全国)9%強(茨城)で全国地域別には前記の傾向に概ね準じている。

表4 まかせている経営部門の内訳

	水陸稲	麦、いも	雑豆	ヤサイ	果樹	工芸作物	養蚕
全国	30	19	18	7	5	2	0
本県	25	21	17	4	8	0	0

	酪農	養豚	養鶏	その他	計
全国	4	2	2	11	100
本県	4	8	0	13	100

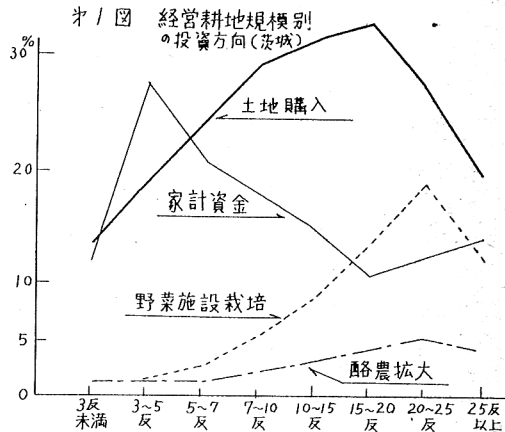
(注) ヤサイには、施設園芸を含む。

⑥ 農家の投資意欲からみる農業に対する評価

農家の投資の方向をみるため、まとまつた金100万円を利子で借用出来る場合どうするか、条件を与えて反応をみたものである。本県の農業経営主が「農業の拡大生産」へ投資する割合は、47%、その他は、「家計費」23%、「育英費」3%、「借入金返済」1%等にあてる意向を示した。「土地購入」は、投資全体の27%、農業関係の中では、約6割弱をしめて、圧倒的に多い。

これを経営規模別にみると上層にうつるにつれて使途

の変化がみられる。



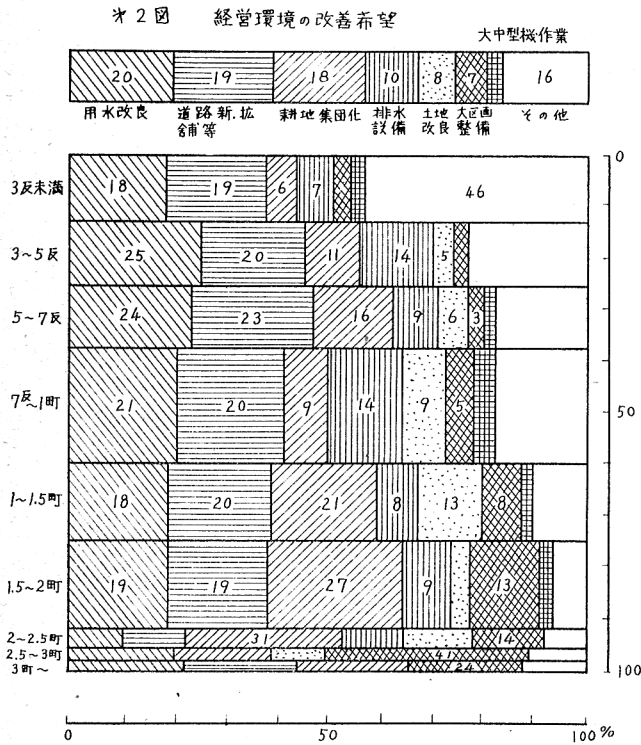
II 農業経営の改善意欲

1 経営環境改善に対する要望

戸別農業の構造改善の前提として、国や地方公共団体

などによる経営環境の改善点について本県農家の要望したことは次のとおりである。用排水、土壌等の改良が38%、道路の新設、拡張、舗装等で19%、耕地の集団化18%、大区画整備7%、大中型機械による賃作業2%、その他16%である。

なお、土地改良関係では、「用水改良」20%、「排水改良」10%、および「土地改良」8%となり、用排水、道路、耕地集団化等で7割近くをしめている。経営規模別には次図のとおりである。



2 農業、非農業への就業志向

(1) 農業経営主の専兼志向

現在、農業を専業とする経営主、あるいは農業を兼業とする経営主につき今後農業、兼業いずれかを志向するか本県の場合、現在の専業経営主は、67%で将来専業経営を志向するもの50%、全国平均38%に比し極めて多いその他は兼業の導入を希望している。また、現在の兼業経営主33%あるが、将来も兼業を主とするもの25%、専業を志向するもの4%、農業を主とするもの1%前後、離農志向が2%弱で、これらを併せて将来の専兼業構成をみると、専業55%、兼業40%、離農2%弱、残3%が不明となる。(註)専兼は経営主についてのものである。

(2) 離農または、零細化志向

兼業の強化は、他面には農業の零細化さらには離農

化へと進むことがあるが、兼業経営主の零細化、離農志向についてみると、「将来農業以外に力を入れる」が10%、そのうち「農業を零細化する」8%、「離農したい」1.5%、「不明」1%弱となっている。離農志向率を全国各地域別にみると、近畿の3.2%をトップに、東海2.8%、四国2.4%、関東2.0%、中国1.7%、九州1.8%、北陸1.6%、東北1.0%、と中部日本が高く、南北日本が低い比率となっている。

(3) 経営耕地規模別の拡大縮少志向

(A) 経営耕地規模の拡大縮少志向

本県農家の希望を集積すると、拡大した40%、へらしたい3%、今までどおりが50%と考えていない7%の割合であり、今までどおりが5割もしているが、その理由は「余力が限界」と訴える農家はその32%、「財産が10%近く、ついで「荒しづくりでいいから付したい」、「小作に出したくない」、その他等10%弱となっている。

第5表 経営耕地の拡大、縮少志向 (%)

	拡大へらしたい	今までどおり	考えていない	計
全国	37	5	51	6
関東	31	6	57	6
茨城	40	3	50	7

次に10年先における本県農家の考えをみると、差引き田は3割強、普通畑は15%、牧草地は1割強、果樹園は5割強の拡大を、桑園は拡大もさることながら縮小に比重がやや多く、減少となり、面積の増加についてはかなり弱く、縮小の志向は拡大に比べて少い。これは、農業労働力の転換と異なり、耕地の獲得が必ずしも容易でない現実を反映し、耕地の処分の必要が生じない限り、積極的縮小する意向をもたないことを示したものとみられる。

これらの実現方法は、耕地購入が圧倒的に多く、ついで借入請負となり、開こん、地目変かん等の外延的は少い。

(B) 耕地の売買価格志向

この志向をみると、買い手志向の数は24%、売り手志向の数は1%となつて売り手は非常に少い。これに併せて、耕地の具体的な条件が生じない限り、需要の大きいことを示したこと、同時に面積縮小にも記しており、耕地の具体的な条件が生じない限り、手離す意向を示さないことを示したものとみられる。

第6表 経営耕地面積の拡大、縮小

面積比(%)

	田			普通畑			牧草地			果樹園			桑園		
	拡大	縮小	差引	拡大	縮小	差引	拡大	縮小	差引	拡大	縮小	差引	拡大	縮小	差引
全国	32	2	30	20	5	15	119	3	116	51	2	49	31	2	29
関東	25	2	24	14	4	10	110	7	103	41	2	39	23	3	21
茨城	34	1	33	17	2	15	84	—	84	55	1	54	4	6	△2

面積比とは、耕地を拡大、縮小しようとする経営主が現在面積(昭和40年)をどの程度増加、減少したかを積み重ね、それを現在面積に対し百分率で示したものである。表中の数値は小数以下4捨5入して表示したので差引き必ずしも合はない。

第7表 経営耕地面積の拡大方法

(%)

	田							普通畑							
	開かん	地変かん	目かん	購入	借請	入負	その他	計	開かん	地変かん	目かん	購入	借請	入負	その他
全国	3	2	83	9	4	100	8	4	75	9	4	100			
茨城	1	1	78	13	7	100	3	1	75	16	5	100			

第8表 田の売買価格志向分布(茨城)

(%)

当金額	10万円未満	10~14万円	15~19万円	20~29万円	30~44万円	45~59万円	60~99万円	100万円以上	不明	計	出現率
買い手	8	25	33	31	3	—	—	—	0	100	24
売り手	—	—	40	30	—	—	10	—	20	100	1

購入の理由についてみると、「農業継続のため」34%、畑64%で第1位をしめ、「採算が合うから」24%、畑24%、ついで「買いかえのため」「財産として」が田9%、畑10%となり、「その他」が田8%、畑10%となっている。これらの価格分布をみると、農業継続のためには、10万円~44万円と幅広く分布している。田では10~29万円が全体の9割以上、畑では10万円~19万円が、9割弱の割合である。

「経営・規模を拡大化」34%、「有利作物を導入」19%、「現在作目を効率化」14%、「その他」2%で、「経営・規模を拡大化」が増額方法の5割に達している。

第10表 農産物販売額増減志向(%)

	全国	関東	茨城
増やしたい	60	60	69
このままでよい	32	33	24
減らしたい	2	2	2
不明	7	6	5
計	100	100	100

これらの結果を農家が示した生産目標を粗生産額によつて示すと次のとおりとなる。

第11表 農産物販売額の拡大方法の志向

	全国	関東	茨城
経営規模を拡大化	55	46	50
現在作目を効率化	26	28	20
有利作物を導入	16	23	27
その他	3	3	3
計	100	100	100
出現率	60	60	69

農業生産の方向

1 農業生産の目標

生活水準の向上のためには、農業所得の増大が必要である。これに対する農家の意識がどの程度か、農産物販売額の増加志向によると、本県の場合増やしたいもの24%、このままでよいが24%、へらしたいもの2%、不明5%である。なお、増やしたいもの69%の増加方法は

第12表 農産物販売目標の分布 (%)

販売額	なし	10万円未満	10~50万	50~100万	100~150万	150~200万	200~300万	300万円以上	計
現在	9	23	35	30	ε	0	0	0	100
10年後	0	2	10	38	26	15	6	6	100

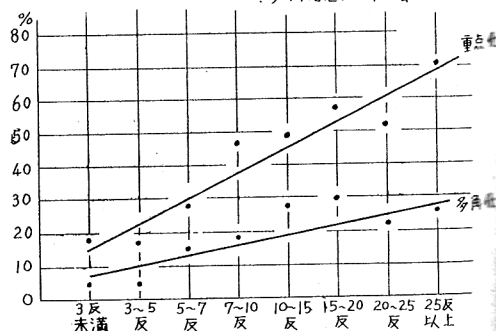
2 作目選択

作目撰択の場合、経営作目を重点化するか、多角化するかの志向をみたが、全国的には、東海近畿地方においては他の地域に比べ重点化、多角化の志向少なく、わからないという流動タイプが過半数をしめている。重点化は、東北、北陸に多く、多角化は、東北、九州に多い傾向となつている。本県では、多角化志向が全国、関東に比しやや多いが、同じ県内でも相当の差異がみられ、重点化志向は都市近郊、平地農村、農山村の順で、複雑な内容を有する平地農村では多角化志向が他の地帯に比べて多い。これを経営規模別にみると明瞭になる。

第13表 作目の重点化、多角化の地域性

	全国	関東	茨城			
			平均	都市近郊	平地農村	農山村
重点化	40	42	40	52	41	32
多角化	16	16	20	7	21	12
不明	43	42	40	41	38	56

第3図 作目の重点化、多角化志向の階層差



3 作目の拡大縮少志向

生産性の向上にしても農業所得の増大にしても具備には効率的な作目を選択することが必要である。これらについて農家の志向をみると階層差がはつきりみられる。

第14表 作目の拡大、縮少志向 (茨城) (%)

	平均	30a未満	3~5	5~7	7~10	10~15	15~20	20~25	25以上
増やしたいもの	37	14	19	28	30	49	56	58	53
減らしたいもの	6	8	3	5	5	8	8	2	1
いまのままでいく	50	66	67	55	60	39	31	40	39
不明	7	12	11	12	5	4	6	—	1

作目の拡大、縮少意向を具体的にみるため、作物・家畜の別に面積・頭羽数の拡大縮少に表現された意欲をみると、作目によつて可成り著しい差が生じている。これは云うまでもなく農家の意欲を表現したもので、資金、技術あるいは土地の流動等の関係もあつて、必ずしもそ

のまま実現されるとは限らない。作物の作付面積の絶対増がない限り困難であろう。この結果はあくまで農家の意欲をみるための指標として利用され動向予の資料として重視されるであろう。

第15表 主要作目の面積、頭羽数の拡大、縮少の志向 (茨城) (%)

	水稲	陸稲	小麦	6条大麦	2条大麦	裸麦	甘しよ	大豆	ヤサイ露地	ヤサイ露地	ラッホセイ
拡大したい農家の増加規模	23	14	2	0	4	—	2	—	100	23	—
縮少したい農家の減少規模	0	6	3	3	2	2	4	1	—	2	—
	なし	くり	飼料作物	乳牛	肉牛	種豚	肉豚	鶏卵	鶏肉	蚕	
拡大したい農家の増加規模	21	50	55	90	50	80	250	38	85	—	
縮少したい農家の減少規模	—	1	—	5	2	—	—	—	—	—	

(註) 10年先の面積、頭羽数の40年比、なお、大規模家畜飼養農家は対象としない。

種 作 生 産

収量の将来

増やせようとする農家の反当増加率を積み重ねると次のとおりとなる。

第17表 水稲反収の増加意欲 (増加率%)

全国	関東	茨 城			
		平均	都市近郊	平地農村	農山村
12.4	10.6	13.1	16.0	12.5	16.7

10年後について40年現在農家の反収に対する比。

反収維持向上策

水稲反収の増加を実現するための条件として農家はどのような栽培技術土地改良を維持しなければならないと望んでいる。これがなくては先にかかげた生産目標達成することは出来ないとしている。もとよりこれは農家の意欲である。

第18表 水稲反収維持向上策 (%)

	全国	茨 城
品種選択が必要	35	38
病害防除が一層必要	22	24
施肥の改善が必要	25	13
育苗栽培 (保護苗代の改良)	7	11
育苗栽培が必要	6	8
圃場共同化が必要	2	2
圃場共同化が必要	2	2
圃場共同化による適期作業必要	2	2
計	100	100

土地改良

	全国	茨 城
用水の改良が必要	33	41
排水を良くすることが必要	20	18
区画整理が必要	16	18
客土することが必要	19	13
冷水改良して温水にすること必要	7	5
暗渠排水が必要	6	5
計	100	100

(注) 戸数割合

(3) 将来の労力調整策

稲作を栽培する農家にとっては、労力調整は現在最も大きい関心事であるが、これらについて将来とる必要があると考えている方策について示した本県農家の内容は次のとおりである。

第18表 労力調整策 (階層別例示) (%)

	平均	3 a 未満	5 ~ 7	7 ~ 10	10 ~ 15	20 ~ 25
家族労働	28	39	33	30	26	17
親類, 他出家族手	6	5	7	6	5	1
伝 臨時雇	11	16	11	11	10	15
機械の利用	29	3	15	31	36	48
共同作業	3	2	3	3	4	3
賃耕, 賃作業	13	28	21	12	7	1
作業を省略	5	2	4	3	6	7
その他	5	5	6	4	6	8
計	100	100	100	100	100	100

なお、機械による調整は具体的にみると、次表のとおりである。

第19表 機械による調整 (%)

	耕うん機	トラクタ	動力 フン機	動力 撒粉機	スピード スプレー	通風乾燥機	動力 揚水機	動力 カッター	力ミル	カウター	オート トラップ	農用自動 三輪車	計
構成比	44	1	11	6	0	17	12	3	0	1	5	100	

第21表 共同作業による調整 (%)

	育苗	耕うん 地 整	田 植	除 草	田 水 理	病 虫 害 防 除	収 穫 乾 燥	脱 穀 調 整	出 荷	そ の 他	計
構成比	10	7	23	6	2	20	14	13	3	2	100

第22表 賃耕, 賃作業による調整 (%)

	育苗	耕うん 地 整	田 植	除 草	病 虫 害 防 除	収 穫 乾 燥	脱 穀 調 整	出 荷	そ の 他	計
構成比	3	31	15	5	4	12	25	3	2	100

第23表 作業の省略による調整 (%)

	育 苗	耕うん 地 整	除 草	病 虫 害 防 除	そ の 他	計
構成比	1	27	56	4	12	100

(農林省茨城統計調査事務所発表)

毎月勤労統計調査結果速報

産業別、常用労働者の1人平均出勤日数および実労働時間数

(昭和40年12月分)

産 業 別	出 勤 日 数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			総実労働時間数		
	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数
総 数 (サービス業を除く)	23.0	22.9	22.9	175.1	183.4	177.5	19.5	8.3	16.2	194.6	191.7	193.7
鉱 業	24.0	25.0	24.0	173.0	181.3	173.6	36.7	14.0	34.9	209.7	195.3	208.5
建 設 業	23.0	23.7	23.1	179.9	179.1	179.8	12.0	4.8	10.9	191.9	183.9	192.7
製 造 業	22.3	22.3	22.3	172.0	185.0	176.0	17.6	6.2	14.1	189.6	191.2	192.1
食 料 品 製 造 業	24.0	23.4	23.7	180.9	179.0	180.1	25.4	5.6	17.1	206.3	184.6	197.2
織 維 工 業	24.8	23.2	23.6	198.2	184.9	187.9	8.0	1.1	2.6	206.2	186.0	192.9
衣服・その他の繊維製品製造業	23.5	23.2	23.2	186.1	177.5	179.2	4.9	1.3	2.0	191.0	178.8	182.2
木 材 ・ 木 製 品 製 造 業	21.8	21.8	21.8	172.3	170.3	171.7	15.0	8.1	12.8	187.3	178.4	184.1
パルプ・紙・紙加工品製造業	25.4	22.0	24.9	180.4	171.1	179.1	26.3	2.9	23.2	206.7	174.0	202.7
出版・印刷・同関連産業	25.5	24.0	25.1	193.5	187.8	191.9	24.5	10.7	20.8	218.0	198.5	212.7
化 学 工 業	21.7	22.0	21.8	168.1	172.0	169.3	20.6	5.8	16.2	188.7	177.8	185.2
ゴ ム 製 品 製 造 業	23.0	22.9	23.0	183.0	182.5	182.7	12.3	2.6	6.9	195.3	185.1	192.1
窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造 業	23.4	25.2	23.7	178.8	177.7	178.6	16.3	5.2	14.6	195.1	182.9	192.2
鉄 鋼 業	22.0	21.1	21.9	169.3	166.5	169.1	22.8	3.7	21.4	192.1	170.2	190.4
非 鉄 金 属 製 造 業	23.2	22.1	23.1	175.8	171.1	175.1	14.2	3.4	12.7	190.0	174.5	185.1
金 属 製 品 製 造 業	25.4	23.6	24.9	194.1	185.4	191.8	19.8	4.4	15.9	213.9	189.8	202.7
機 械 製 造 業	22.4	22.3	22.4	179.7	179.2	179.6	11.3	2.1	9.0	191.0	181.3	189.4
電 気 機 械 器 具 製 造 業	21.3	21.7	21.4	168.2	170.7	168.9	17.2	9.9	15.0	185.4	180.6	185.9
輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	22.1	21.8	22.0	176.7	173.1	176.1	17.7	3.5	15.2	194.4	176.6	192.1
計量器・測定器・測量機械・医療機械・ 理化学機械・光学機械・時計製造業	23.8	22.1	23.1	178.1	173.9	176.2	16.6	2.4	10.2	194.7	176.3	192.1
そ の 他 の 製 造 業 (武器、たばこ製造業を含む)	21.5	21.9	21.7	169.0	174.6	171.4	26.2	4.3	16.6	195.2	178.9	192.1
卸 売 業 ・ 小 売 業	24.7	25.3	24.9	192.1	195.1	193.2	24.1	9.6	18.8	216.2	204.7	212.1
金 融 , 保 険 業	26.8	26.1	26.4	186.6	189.8	188.3	5.1	3.3	4.6	192.7	193.1	192.9
不 動 産 業	23.5	24.7	23.7	164.3	173.1	165.8	8.5	9.3	8.7	172.8	182.4	179.2
運 輸 通 信 業	24.0	22.6	23.7	180.7	167.7	177.4	21.4	20.5	21.2	202.1	188.2	198.4
電 気 , ガ ス , 水 道 業	23.9	22.5	23.8	163.6	164.2	163.6	20.1	7.6	18.9	183.7	171.8	180.1
修 理 業	23.5	23.5	23.5	180.8	186.1	181.4	12.3	14.0	12.5	193.1	200.1	196.6
医 療 保 健 業	24.0	23.6	23.8	180.4	175.7	177.7	11.2	12.2	11.7	191.6	187.9	189.7

水戸市の消費者物価の概況

(昭和40年12月)

12月の水戸市の消費者物価指数は総合で134.0となり、前月の135.5に比較して-1.1%の下落となつた。これは野菜の値下がりより前月にひきついで-35.9%と大きく下落したためである。一方乳卵(2.7%)、肉類(1.9%)、調味料(1.7%)などの食料品に若干の値上りがあつたが、他に目立つた動きはみられなかつた。また、野菜、果物などの生鮮食料品を除いた指数では0.2%の微騰となつている。

水戸市の消費者物価指数

昭和35年=100

	総合	食料	穀類	その他の食料	住居	光熱	被服	雑費
昭和39年12月	126.4	128.3	114.5	133.7	125.5	105.2	132.6	123.9
40年11月	135.5	135.7	130.0	137.9	135.6	105.5	144.0	138.4
12月	134.0	132.7	130.0	133.7	135.9	105.9	143.6	138.7
前年比(%)	-1.1	-2.2	0	-3.0	0.2	0.4	-0.3	0.2
前年同月比(%)	6.0	3.4	13.5	0	8.3	0.7	8.3	11.9

消費費目別にみると

食料指数は132.7となり前月の135.7と比べ-2.2%下落したが、これは野菜のうち白菜、馬鈴薯、大根など、果物でりんごなど、加工食品でもたくあんづけなどが若干値下りしたためであるが、反面、乳卵では鶏卵が、肉類では豚肉(中)など、調味料でも砂糖が値上りした。

住居指数は135.9となり前月の135.6と比べ0.2%微騰したが、これは角材、ベニヤ板などの上昇があつたためである。

光熱指数は105.9となり、前月の105.5と比べ0.4%微騰したが、これは一部で木炭、石炭などの上昇があつたためである。

被服指数は143.6となり、前月の144.0と比べ-0.3%の下落となつたが、布団綿、靴修理代などは値上りした。

雑費指数は138.7となり、前月の138.4と比べ0.2%の微騰となつたが、これは一部でグローブなどの値上りがあつたためである。

消費者物価指数(大分類別)

水戸市 昭和35年=100

年 月	総合	食料	住居	光熱	被服	雑費
昭和35年平均	100.0	100.0	105.9	100.0	100.0	100.0
36年 //	105.7	106.6	100.0	99.5	102.6	104.0
37年 //	111.2	110.5	110.7	103.4	113.1	110.6
38年 //	119.5	121.1	118.4	104.1	120.8	118.7
39年 //	124.0	126.7	119.4	104.4	125.8	122.4
昭和40年1月	r 130.9	134.1	121.9	105.2	r 136.1	128.9
2月	r 132.1	136.3	126.1	105.2	r 135.9	128.7
3月	r 134.2	139.6	r 126.1	105.1	r 136.4	129.1
4月	r 137.1	143.0	r 128.2	104.3	r 136.2	134.0
5月	r 138.0	143.5	r 131.2	105.1	r 140.5	134.1
6月	r 139.7	146.6	r 131.8	105.1	r 138.8	134.2
7月	r 138.7	144.9	r 133.1	105.1	r 138.9	134.3
8月	r 136.7	141.1	r 133.0	105.1	r 138.9	134.4
9月	r 142.5	151.1	r 133.0	105.3	r 141.3	134.8
10月	r 140.5	145.9	r 134.6	105.3	r 142.6	137.7
11月	r 135.5	135.7	r 135.6	105.5	r 144.0	138.4
12月	134.0	132.7	135.9	105.9	143.6	138.7

rは訂正数字を示す。

茨 城 県 鋳 工

(昭和40年11月)

概 況

11月の鋳工業生産指数は201.0で前月比(-)0.2%の減前年同月比25.0%の増となつたが、季節修正を加えると10月218.8、11月217.1で(-)0.8%の減となつている。また公益事業を加えた産業総合では200.4で前月比(-)0.2%減、前年同月比24.9%の増である。

産業別にみると

(1) 製造業指数 212.2

前月比(-)0.1%減、前年同月比26.5%の増である。

(2) 鋳業指数 114.4

前月比(-)1.0%減、前年同月比7.4%の増となつている。

(3) 公益事業指数 107.6

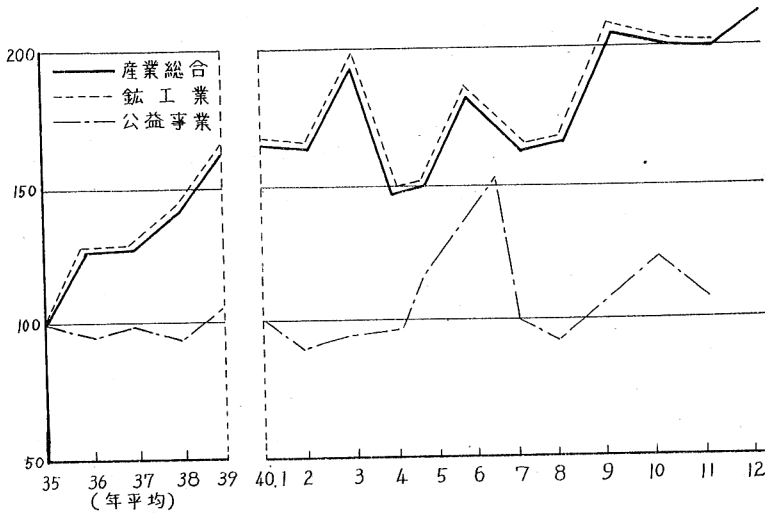
前月比(-)12.2%減、前年同月比9.3%の増となつている。

年 月	分 類				
	産 業 総 合	公 益 事 業	鋳 工 業	鋳 業	石 炭 鋳 業
ウ エ イ ト	100.00	0.60	99.40	11.42	70.90
昭和35年 平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
// 36 //	126.5	96.9	126.6	102.9	101.8
// 37 //	126.1	97.2	126.3	103.5	99.1
// 38 //	140.8	84.1	141.2	105.8	101.8
// 39 //	163.5	104.1	164.0	110.0	105.1
// 39年 11 月	160.4	98.4	160.8	106.5	95.1
// 40 // 10 月	200.8	122.6	201.3	115.6	108.8
// 40 // 11 月	200.4	107.6	201.0	114.4	115.0

年 月	製				
	輸 送 用 機 械	精 密 機 械	窯 業	化 学 工 業	石 油 石 炭 製 品
ウ エ イ ト	2.38	0.83	4.95	2.58	0.20
昭和35年 平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
// 36 //	193.6	155.5	100.3	107.0	96.0
// 37 //	215.1	653.3	98.8	90.8	94.0
// 38 //	266.7	1,064.8	100.7	94.3	71.0
// 39 //	318.0	1,260.0	120.7	97.2	70.0
// 39年 11 月	341.0	1,087.2	149.3	97.2	68.0
// 40 // 10 月	290.3	1,034.9	133.4	83.2	68.0
// 40 // 11 月	305.6	1,289.2	140.6	79.0	71.0

美 生 産 指 数

35年=100



金属鉱業		製 造 業				
金属鉱業	非金属鉱業	製 造 業	鉄 鋼 業	非鉄金属工業	一般機械	電 気 機 械
25.69	3.39	88.58	2.92	17.21	10.47	27.99
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
103.8	120.1	129.7	128.5	140.2	155.8	143.8
112.6	124.8	129.3	128.5	107.9	145.7	141.7
113.9	139.5	145.7	133.8	138.8	169.2	145.1
113.9	185.2	170.9	169.3	200.0	158.5	181.2
113.3	274.5	167.8	174.3	221.1	157.1	176.0
114.1	271.0	212.4	154.1	189.1	106.2	374.9
106.7	155.2	212.2	142.9	203.4	100.5	346.6
業						
皮革工業	紙及パルプ	繊維工業	製 材	食料品工業	たばこ工業	その他の工業
0.14	1.43	2.31	3.96	10.44	7.13	4.98
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
117.9	120.5	142.3	106.8	105.9	81.8	130.2
172.1	149.7	165.2	112.6	119.0	74.0	114.2
220.3	162.2	176.7	108.0	122.7	72.0	162.2
255.8	175.4	144.7	128.2	126.2	56.9	169.6
293.7	187.4	157.7	124.5	75.8	39.2	188.9
277.6	172.6	189.0	134.6	76.2	36.6	236.3
177.1	173.8	194.9	131.3	82.9	32.7	300.1

♪ 開けいく鹿島の丘に初日さす♪

太古以来、静かに眠りつづける鹿島の長くつらなる砂丘、うち寄せる太平洋の波浪が日ねもすこの砂丘をなめながら幾年月、いま、昭和41年の初日は静かにやわらかくほほえみかけて大地を平等に照らし、ここ、鹿島の朝は希望に明けようとしている。

県が、この生産性の低い農地と平地林などの広大な土地、加えて豊かな水資源に恵ぐまれた開かれざる豊庫、鹿島開発に着手、この自然の豊庫はいま科学の手によつて、一大港湾を中心とした工業地帯に大きく飛躍しようとしている。

♪ 開発のひびきモグラを驚かし♪

「明るく豊かな県民生活の実現」という目標のもとに県はいま、工業開発と農業の近代化の二大支柱を軸とした鹿島工業地帯造成計画、筑波研究学園都市の建設をはじめとする各種の総合振興計画をおし進め、後進性脱却の槌音はいよいよ高まらんとしている。

社会経済の大きなうねりの中において、本県においてもその様相を刻々と変ぼうしようとしている。長い平和な地下生活に吾が世の春をおう歌していモグラ族も、地上の騒々しさに目を丸くしていることだろう。

♪ また一つ年寄りとなる

蘇きげん♪

古人いわく、門松はめい土の旅の一里塚……と、世の中には何時の時代にも皮肉屋と言われる者がいたもんで、人がめでたいと言っているのに、めでたくもあり、めでたくもなしなどと此の世をすねてみたり、人間年をとると正月がくるたんびに先が短くなつたかという感慨にふけるのもけだし当然であるとは筆者最近の実感。しかし、厚生省人口問題研究所の昭和39年簡速静止人口表による平均余命は男67年、女72.47年で、これを昭和22年にくらべると男で15.81年女17.19年と驚くほど伸びているそうだから、そんなに悲観したものでもなく、一層若返つて人生をおう歌しようではないか。

♪ 値上りの年となりそな初日の出♪

物価の値上りは、台所担当者の頭を痛めるところ、す

べての値だんがどんどん上昇し、ちよつとの収入増は石に水、昨年12月の水戸の消費者物価指数をその前の12月とくらべると総合において6.3%、食糧3.4%、住居9.6%、光熱0.7%、被服9.5%、雑費11.9%といつともはね上り、今年も新年早々公共料金などの大中値上に刺激され諸物価高騰の気配濃厚である。

♪ 生きているしるしが届く年賀状♪

郵便屋さんには気の毒だが、元旦に配達される賀状1枚1枚みるのも正月気分満点、あああいつも元気がいいとか、1年のご無沙太を1枚の賀状に託したその文の跡に友人、知己の顔を懐しく思いうかべて追憶によるのも正月こそである。

♪ 初詣りでつかい欲を祈りこみ♪

今年こそはよい年でありますように……仏閣に祈念するのも正月風景、世の中の景気になるほど神詣りは盛んになるといふ。今年の幸せを、金もうけを、交通の便のないよう、長生きするよう、よい配当が得られるよう、入学試験にパスするようなど、人間の欲望は大から小まで山ほどあるらしい。

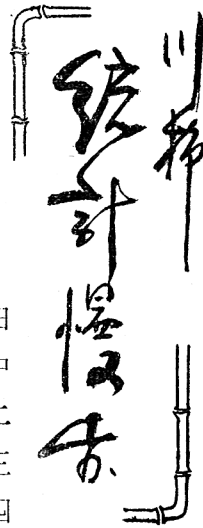
♪ 懐しく昔の味を嘗みしめる♪

正月7日、七草なづな唐土の鳥と……の鳥か渡らぬうちに♪と、うたいながら七草を刻みこんで七草がゆで祝つたことな。いまはあまりみられなくなつたことと思うが、あのほの辛い塩味に昔のよきもののどかな正月の諸行事が思い出されたい。

♪ 成人の晴着は親の義務で着せ♪

♪ 成人式他人の晴着着にかかり♪

今年は終戦子が迎える成人の日、本県でも2万9千……若人が、社会人としての晴れの門出を祝つたわけだがここでいつも問題になるのは女性の服装、年々高くなつてきながら着物ショーの感がある成人式、晴着が買えないため出席しない人も相当あるらしい。きれいな跳める他人には良いが、この晴着をせがまれる親にとって最低5万円はかかるというこの晴着代の捻出には痛いしかし親の義務だよといわれればやりくり算で着せてやらなければならないと思うが。



田中二三四

(16)

統計の交差点

第60回全国統計主管課長会議

この会議が来る41年2月8日、総理府講堂で行なわれ、主な議題は
昭和41年度統計基準局の予算
昭和41年度各省庁の統計予算
昭和41年度都道府県統計専任職員の配置定数
などについてである。

昭和41年度教育統計調査地方ブロック指示説明会開催予定

この説明会が関東甲信静各県の関係者を集めて、来る昭和41年2月14日(月)から2日間、本県筑波町山水で開かれます。議題は学校基本調査、学校保健調査の指示説明

関東甲信静ブロック統計主管課長会議

この定例会議が昭和41年1月28日(金)午後1時から筑波市において開かれた。議題は各県持よりにより行なわれた。

通商産業関係

全国統計主管課長会議

この会議が昭和41年2月9日(水)午前10時から、東京主催で東京都の都道府県会館で、昭和41年度予算編成計画等の議題について全国統計主管課長会議が開かれます。

統計教育伝達講習会

この講習会主催東日本地区統計教育講習会の、伝達講習会が来る1月18日水戸市柵町の県学校長会館で、地区講習会開催された小、中学校の諸先生と教育庁指導課の増田らびに来賓として県統計課長竹内精一氏を招いて開かれた。この講習会においては統計教育の基本的な考え方、統計の基礎技術、表とグラフの作り方、見方などについて午前10時から午後5時まで、県内の統計教育の推進者の先生らが熱心に聴講した。

統計職員養成所統計実務研究会

この会は統計職員養成所を修了した卒業生をもつて結成されているが、この同窓会主催による第11回の統計実務研究会が下記により開催されました。
昭和41年1月26日(水)午後1時から5時まで

総理府講堂において
行事は同窓会定例会議、講演、実務研究会、懇親会となつている。

統計協会経営研究会ならびに 刊行物編集研究会開催される

全統連主催による標記の研究会が、全国都道府県の関係者100余名をあつめて、去る1月24日と25日の2日間総理府講堂で行なわれました。第1日の経営研究会は41年度全統連の事業計画、都道府県統計協会の経営、統計教育について、2日目の編集研究会は各都道府県で刊行している統計関係出版物についての編集部門の研修が主なテーマである、

統計協会理事会開催

昭和40年度統計協会理事会が、来る2月2日(水)水戸市内大坂町水府荘において下記議題について開かれる。

記

昭和40年度事業の中間報告について
昭和41年度事業計画の概要について
その他

水海道市統計大会

第2回水海道市統計大会が、41年1月20日水海道小学校講堂で市内の調査員200名が参加行なわれた。午前10時落合市長のあいさつに始まり功労者表彰、竹内県統計課長の「国調からみた本県のすがた」と題して講演があり、午後1時盛会裡に終了した。この大会で永年勤続などで石塚利夫氏外22名が表彰された。

下館市統計調査員研修会

下館市主催の下館市統計調査員研修会は来る2月15日開かれることに決定しました。この大会では永年勤続の調査員が、協会総裁賞、市長賞など表彰をうけることになつており、当日の盛儀が予想される。

第16回日本統計年鑑刊行

日本統計年鑑(1965年版)が刊行されました。ご希望の方は当協会であつせんいたしますから、下記によりお申し込み下さい。

記

発行所 日本統計協会
編集 総理府統計局
装丁 総クロス製B5—616頁
定価 2,500円
申込は 昭和41年3月10日に茨城県統計協会まで

近 着 統 計 資 料 案 内

書 名	調査年 刊行年	発 行 者	図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者
産業・経済			昭和40年国勢調査結果報告	40 年	福 井 県
消費者物価地域差指数	39 年	総 理 府 統 計 局	〃	〃	静 岡 県
株式分布状況調査結果	〃	大 蔵 省 証 券 局	〃	〃	徳 島 県
法人企業投資予測統計調査報告	40 年	経 済 企 画 庁	〃	〃	島 根 県
経済変動観測資料	40年2月	〃	長 崎 県 勢 要 覧	〃	長 崎 県
工業統計表(品目編)	38 年	通 産 省	栃 木 県 の す が た	〃	栃 木 県
〃 (産業編)	〃	〃	国勢調査結果概要	〃	新 潟 県
社会・労働			工業統計調査結果速報	39 年	神 奈 川 県
郵政統計年報	39 年	郵 政 省	地域別県民所得	38 年	三 重 県
昭和40年の賃金構造調査結果	40 年	労働大臣官房労働統計調査部	統計だより	40 年	富 山 県
民間給与の実態	40年8月	国 税 庁	工業統計調査結果報告	39 年	兵 庫 県
各都道府県			宮 城 県 の 経 済 概 況	〃	宮 城 県
生活水準統合調査報告	38 年	福 島 県	モデル賃金	40 年	東京商工会議所
学校基本調査の結果	39 年	愛 媛 県	商業統計調査速報	39 年	東 京 県
昭和40年国勢調査結果概数	40 年	静 岡 県	群馬県の工業	〃	群 馬 県
愛知県商業	〃	愛 知 県	輸出生産実態調査結果	〃	神 奈 川 県
昭和40年国勢調査結果概要	〃	滋 賀 県	横浜市の人口流動	39 年	横 浜 市
長野県人口の社会動態	39 年	長 野 県	工業統計調査結果	〃	愛 媛 県
兵庫県勢要覧	40 年	兵 庫 県	茨城県		
香川県統計年鑑	〃	香 川 県	茨城県議会資料	41年1月	県 議 会 事 務 所
大阪府勢要覧	〃	大 阪 府	〃 地方労働委員会年誌	39 年版	県 労 委 事 務 所
島根県民所得	38 年	島 根 県	〃 人事統計年報	40 年度	県 総 務 部 総 務 課
県民所得とその推計	39 年	兵 庫 県	海水動力漁船の船令構成	39 年	県 農 林 水 産 部 施 設 課
静岡県勢要覧	40 年	静 岡 県	茨城県教育要覧	40 年	県 教 育 委 員 会
賃金・雇用の動き	39 年	三 重 県	茨城県の養蚕	39 年	農 林 省 茨 城 支 店 査 査 事 務 所
東京都統計年鑑	〃	東 京 都	豚飼養の動向	40年10月	〃
業務概要	40年4月	新 潟 県	開きの大きい生産性	〃	〃
図書資料案内	40 年	岩 手 県	冬期土地利用の労働力の対応	〃	〃
県民所得推計結果概要	39 年	熊 本 県	最近の専業兼業農家のくらし	〃	〃
愛知県勢要覧	40 年	愛 知 県	家畜飼養の概況	39 年	〃
統計資料	39 年	山 形 県	農家就業動向のあらまし	〃	〃
昭和40年国勢調査結果報告	40 年	群 馬 県	はくさいの暴落がめだつ	40年11月	〃
〃	〃	横 浜 市	農業協同組合の現況	39 年	県 農 政 課
〃	〃	富 山 県			

大久保今輔(7)

前田香徑

郷土としての身分を返上し、自由な天地に大手
 活理したい希望に燃えていたので、そのため百
 御役御免を願ひ出たのである。「烈公逸事」

手を以て取繕ひ、東叡山宮様へ願ひ、御暇下され
 のことに候処兼て右の風聞ありけるにや、中
 より東叡山へ申入置、御国法にて申付け候間、
 相願候とも御取受けに相ならざる様にとのこ
 今助困り候由」

一文を見てもこの事情は推察される。江戸に帰る
 文に逢つて焼失した店舗は新築されていたもの
 藩から委託経営していた米会所や無尺講はもと
 の和紙その他の雑貨類の交易まで根こそぎ停止
 その上今輔という主軸を失つた1年間の営業の空
 違つて営業はひどく沈滞していた。そこで彼
 の新事業を計画し、早速その実行に着手したので
 彦根湖干拓がそれで、この発想は今輔ではなく彦
 全画であり、彼は彦根侯の委託をうけたのだとい
 るが、ともあれ今輔は天保4年2月江戸を発足
 西へ向つた。長瀬好謙の碑陰文に

良速の間に遊び、花朝月夕優遊閑詠以て其志を
 遊歴する事百有余日。逆旅に疾に罹る」
 あり、勝林寺の墓碑にも

同冬逆旅疾遊歴、尚百日、今歳甲午春2月、帰江都
 之亭」とあつて旅中の発病は両碑文共に一致して
 彦根湖干拓の大事業に関する資料は見当たらない。
 その実地調査をしたかどうかとも判然しないが、一説
 と沿岸諸村の漁民はこぞつて干拓に反対し、今輔
 一家に宿泊中、彼らの持参した饅頭を食べて発病つ
 漁民に毒殺されたというのである。江戸を出発す
 意気軒昂たる姿に反し、駕籠の中に病体を横たい
 2月4日の夕近く、京橋の自邸に帰つてきたので
 名ある医の診療をうけたが、病名ははつきりせず
 その月17日急変して78歳の一生を終つたのである。

築地は築地の真宗本願寺末寺勝林寺に埋葬されたが、
 二年の関東大震災に本願寺一带は寺も民家も焼失し
 手は同4年世田谷区松原町二丁目に移転した。今輔
 の墓所も同時に移転したが、墓石は大半焼け損じ旧

築地の墓地にあつた今輔の墓碑文には孝子秀重謹誌と
 書かれてあつたが、「水府系墓には嗣絶とある。彼は晩
 婚の堀井氏との間に一女子が生れたという。秀重はこの
 女子の婿養子に相違ないが、亀作の大久保重忠翁(当時
 76才)は私の訪ねたとき、「今輔には実子はない」と語
 つていたから堀井氏との間に生れたという女子は他人の
 子であつたかもしれない。常陸生れの彼が上総屋の屋号
 を一生廃していなかつた点にも疑問がある。堀井氏の素
 性や養嗣子秀重の経歴も明白でない。今輔の戒名は「実
 心院殿釈淨信秀房居士」としてあるが、亀作の大久保家
 は元来真言宗(現在は神葬)で高貫(現常陸太田市)の
 寿福院が菩提寺であるのに、今輔ひとり真言を捨てて一
 向宗に帰依した経緯も分らない。

その送葬には三日間にわたり、会葬者が諸方から雲集
 し、彼の死を惜んだというが、墓碑文は「財を散じ人に
 施し其の費算なし」と記し、更に「遺徳を追思し、愛惜
 せざる者なし」とも書いてある。水戸藩にのこる資料は
 殆んど彼を大山師とか、大詐欺師とか悪罵し、特に学者
 達は意識的に彼の行状を抹殺しようとしているらしいが
 彼に対するその評価は今になつてみるとかなり狂いある
 と私は思っている。

今輔については長い間その資料の蒐集に努め東京の図
 書館もかなり多く尋ねまわり、参考となるような資料は
 一行半句も見逃すまいと留意してきたが、彼を伝する書
 物は全く見当らなかつた。数種の人名事典にも一応当つ
 てみたが「大久保今輔」とうな名は載つていない。彼が
 紀伊国屋文左衛門のように、吉原の大門を閉めきつて大
 判、小判の雨を降らすような奇行でも演じていたら、そ
 の名声はもつと広く世に知られていたかもしれないが、
 彼は江戸屈指の銀主として、また水戸藩勝手元の大元締
 として、五百石を食む身分に楽進してからも、成金臭味
 を發揮するようなことはなかつたし、生活もいたつて地
 味だつたし、他人との応対も平素の言動も頗る謙遜的で
 常識脱れの突飛なことはやりそうもない性格だつた。松
 浦静山も「なりあがりものだから、さだめし高慢な面構
 えの肥大漢だろうと想像していたら、逢つてみると背の
 低い老人で風評とは反対な風采……」と「甲子夜話」に
 書いている。